

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2771601941
法人名	株式会社イワノ
事業所名	グループホームきさく苑吹田
訪問調査日	平成20年1月23日
評価確定日	平成20年2月22日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2771601941
法人名	株式会社イワノ
事業所名	グループホームきさく苑吹田
所在地	大阪府吹田市内本町1丁目17番17号 (電話) 06-6319-6130

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年1月23日	評価確定日	平成20年2月22日

【情報提供票より】平成19年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13人	常勤7人、非常勤6人、常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	4階建 鉄筋コンクリート造り		
	4階建ての	1階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 3年
食材料費	朝食	200 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		名	要介護2		4名	
要介護3		2名	要介護4		2名	
要介護5		1名	要支援2		名	
年齢	平均	84.7 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会吹田病院 秋本クリニック 山本歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームはJR吹田駅、阪急吹田駅に近い閑静な住宅街の一角にある。寝具レンタル業を営む経営者が、市内の独居高齢者のふとん乾燥をしていた縁で、認知症高齢者の実態を知り、何か社会のお役に立ちたいとの思いで元看護師寮を改装してグループホームを立ち上げられた。当初地域住民の反対も強く設立までかなりの日時を要したが、設立から4年を経過した現在では、地域の人からも愛され地域の行事への誘いやホームの玄関前に四季折々の花などを植えてくれる等地域に愛されている。利用者、職員は暖かい声をかけて頂きながら地域交流に務めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①利用者の活動意欲を喚起する工夫②コミュニケーションの困難者の入居への対応③地域との連携強化④職員の研修体制の充実⑤利用者の金銭管理。の5点が挙げられていたが、職員全員会議等で改善方策について検討し、一定の成果を挙げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価表は、管理者が一部の職員と相談して記入したが、評価の意義は管理者・職員とも十分に理解しており、評価をサービスの質の向上に繋がりたいとのつよい意欲が感じられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:4、5、6)
	運営推進会議は一度も開かれていない。地域に開かれたサービスとして質の確保を図るため、という運営推進会議の目的を達成するため、早期に第1回の会議開催を提案したい。まず、メンバーの選定(利用者・家族・地域の代表・地域包括支援センター・吹田市職員等)から入り、日時、場所、議題を決定して連絡、会議開催の手順で進めてはどうか。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対処方法・運営への反応(関連項目:外部7、8)
	毎月1回の報告書を作成して家族に送付すると共に、家族会や家族の来所時に受ける家族の意見や要望を、毎月の職員ミーティングで検討して、運営に活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	自治会に加入して、吹田市や自治会の主催する敬老会、餅つき大会・夏祭りに参加しているが、受身の活動であり、もう少し積極的に地域にでていくことが、運営推進会議の定着にも繋がると思われる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時の理念を一部手直した、3L(Libその人らしさを大切に・Life楽しく居心地のいい暮らしを・Love一人ひとりを思いやり)を理念として、事業運営に取り組んでいる。	○	法改正で、平成18年度から認知症高齢者グループホームも地域密着型サービスの理念が求められている。実績を重ねてきたこれまでの理念を基礎として、地域密着型の新しい理念を作り上げることが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	前項の理念を目に付きやすい玄関のところに掲示して、日々実践している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、月1回の廃品回収日や回覧板配付時に、地域の情報を収集して、市や自治会の主催する敬老会・餅つき大会・夏祭りに参加している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に評価の意義は、十分に理解しており、ミーティングを通じてサービスの質の向上に繋がりたいと、強い意欲で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は一度も開催されていない。	○	運営推進会議の目的である、地域に開かれたサービスとしての質の向上を図るため、早期に第1回の会議を開催することが求められる。まず最初に、メンバーの選定(利用者・家族・地域の代表・地域包括支援センター・吹田市職員等)から入り、日時、場所、議題を決定の上、連絡、会議開催が早期に行われることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	吹田市役所が近いので、必要書類の提出等の際は、必ず窓口を訪ねて、関係情報の収集に努めている。市内のグループホームや特定施設と市介護保険課職員との部会にも参加してサービスの質の向上に努めている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時に、利用者の日常の様子を報告すると共に、毎月1回事業所報告書を作成して、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会及び来所時に聞く家族の意見等は、毎月の職員ミーティングにおいて検討し、事業運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所開設時からの職員もおおり、利用者との馴染みの関係ができています。職員の離職によってこの関係が壊れ、利用者の不安を招かぬようあらゆる努力を重ねています。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、可能な限り参加し、出席した職員からはミーティングの場で伝達し職員全員が情報を共有するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市介護保険課職員、吹田市内のグループホーム・特定施設の事業者等で構成する「吹田市介護保険事業者連絡会」に参加し交流を図っている。今年度は、小部会活動として、他のグループホームを見学して、意見交換を行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の生活歴や生活状態を家族等の協力を得て把握し、一日も早く、新しい生活に馴染めるよう努力している。体験利用も提案している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩としてとらえ、支えあって過ごせるよう努力している。職員の一番嬉しいことは「利用者さんから、名前を呼ばれて、お礼を言われた時」との話しに、日ごろの信頼関係が伺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、利用者各人の情報を持ち寄り共有し、可能な限り本人の希望に添えるよう努めている。時々ではあるが、利用者と職員と二人で食事に出かけて、その時の会話を通じて意向を把握することもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、利用者の状況・家族の意見・職員の見方等を総合して、より良い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一定期間の見直しの他に、利用者に変化が生じた場合は、家族とも相談しながら、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況や家族の希望により、外出支援、病院への送迎、外泊支援など可能な限り柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科については、月1回協力医療機関・秋本クリニックの先生に往診してもらっている。夜間の対応も適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の契約時に重度化した場合の対応は説明しているが、終末期のことは、話していない。今後、重度化・終末期のことについて、家族等と十分に話し合っていく方針である。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保には神経質なほど注意し対処している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、それに拘ることなくゆつくと利用者のペースで希望に添えるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はもっとも大切な時間と位置付けて、調理・配膳と食事(利用者、管理者、職員を3テーブルに分けて)後片付けまでを皆で一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を目安に入浴をしてもらい、希望によりその他の日も入浴可能にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアで3人の先生が来てくれる月2回の書道教室は、常に6～7名が熱心に練習し、出来上がった作品は書道展に出品している。(参加しない人は、その間外出する。)その他、吹田市の委託事業の音楽療法も月2回実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により、買物、近くのお寺へのお参りを兼ねた散歩や外食等で外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員とも鍵をかける弊害を理解しており、扉は開放し鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者は、防火管理講習を受講して、防火管理規定にもとづく事業所の消防計画(自主検査チェック表)を作成し消防署に提出されるなど災害時対策に積極的に取り組んでいる。消防署に来て頂き消防訓練が8月に実施された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に応じて、キザミ食、ペースト食も含め対応している。食事摂取量・水分量も記録している。	○	一週間あるいは一ヶ月単位の献立メニューを基にして、栄養士によるカロリーチェックを受けるなど、栄養バランスを見直す努力が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、ダイニングキッチン風の食堂となっているため、居間部分を簡易畳敷きとして、和風の飾りを四季折々の物にしたり、季節の食材で料理するなど、日々の暮らしに、季節感が味わえるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と家族の意向で、使い慣れたものや季節毎の衣類等を自由に持ち込み、本人が四季の変化を感じて、居心地よく過ごせるように工夫している。		